

令和8年度 第2学期 始業式式辞

おはようございます。

いよいよ今日から2学期が始まりますが、この夏休み期間中、日本国内では大きな災害がありました。そのうちの1つは7月末に熊本県で発生した地震です。他には、千葉県や石川県、富山県、福井県などで豪雨による災害がありました。災害に見舞われた方には心からお見舞い申し上げます。

それと同時に私たちも万一、同じような災害に見舞われたときにどのような行動をするのが最も適切かを知っておかなければなりません。地震が起こったときのシェイクアウト、どのような順路で避難するか、自分が住んでいる場所なら避難所はどこか、避難の際に、持っておいた方がよいものは何か。そういった基本的なことをこの機会に家族とも話し合っておくことが大切です。

さて、夏休みを振り返れば、始まってすぐに県総体がはじまりました。私も可能な限り観戦させていただきましたが、皆さんは3年生を中心に、本当によくがんばりました。また8月には吹奏楽部がコンクールに臨み、県大会、四国大会で見事に金賞を受賞しました。総体やコンクールで四国大会や全国大会に出場した人にはここにいるみんなでおめでとうと言いたと思います。一方で、地区総体や県総体で破れ、上位の大会への出場が叶わなかった人もいます。本校の部活動、校外での地域クラブで活動している人も含め、夏の大会に臨むに当たり、手を抜いた人は誰1人いないと思います。どこの会場に行っても、皆さんが一生懸命、競技や演奏に臨む姿、また、出場選手を応援する姿がありました。観中魂に感動しました。改めて皆さんにお礼が言いたい。ありがとうございました。

今年は6月にサッカーのワールドカップが北中米で開催され、日本の試合を、多くの方がテレビ等で観戦したと思います。今でも連日、野球やバレーボール、バスケットボールなどの報道がなされていますし、まもなく、アジア大会も開催されますから、ますますスポーツの世界が盛り上がっていきそうですが、今日はワールドカップ、と言ってもサッカーではなく、ラグビーのワールドカップの話をしようと思います。

ラグビーのワールドカップもサッカーと同じように4年に一度開催されます。前回フランスで開催され、南アフリカが優勝しました。次回は来年、オーストラリアで開催される予定です。

今から7年前の2019年、皆さんが小学校の低学年だったころは、日本で開催されました。このときの日本選手の活躍は素晴らしいもので、大いに盛り上がりました。チームを象徴する言葉「ワンチーム」は、その年の年間流行語大賞にも選ばれました。

実は、この日本の活躍には布石がありました。それは、さらに1つ前の大会である2015年のイングランド大会です。この大会で、日本は強豪、南アフリカを試合終了間際に逆転で破る大金星を挙げています。24年ぶりの勝利で日本では新聞の号外が配られ、世界からも注目されました。その理由は勝ったことではなく、試合展開にあります。試合終了間際、日本は3点差で負けていました。そこで、日本は相手ゴール前でペナルティを得ます。最後のワンプレイ、選択肢は2つ。同点となるペナルティキックを選ぶか、それとも逆転をねらってスクラムを選ぶか。結果は、スクラムからボールをつなぎ、劇的な逆転トライによって勝利したのです。

この逆転トライの背景にあるものとは何でしょうか。それは「主体性」にあったと言えます。実はこのとき、日本代表のヘッドコーチはペナルティキックで同点をねらった方がよいと考えていました。しかし、ヘッドコーチは試合前に、最終の判断は主将のリーチ・マイケルに任せると言っていたので、リーチ・マイケル主将は、最終局面で、逆転をねらったスクラムを選択しました。

「ワールドカップには勝ちに来たので、同点のペナルティキックをねらうという頭はなかった」そうです。

かねてから、日本代表チームは、コーチが打ち出した計画を受け身ではなく、チーム全体で話し合っ、足りないところは新たなメニューを加えるなどしながら、積極的に練習に取り組むチームでした。それは、リーチ・マイケル主将が「主体性」をチームのテーマに掲げ、チームを鼓舞していたからです。「主体性」とは「自らの意思・判断によって、自ら責任を持って行動する態度や性質のこと」を言います。

選手たちは自分たちで考え、ワールドカップに向けて、世界一過酷と言われる練習を乗り越えてきました。そして、そのことを自信として、ワールドカップの試合においても、彼らは主体性をもって、自らの意思と判断で行動し、日本のラグビー史上に残る歴史的なトライにつなげたのです。

このことから学ぶことは、何かを成し遂げるとき、「自らの意思・判断によって、自ら責任をもって行動すること」が重要であるということです。私たちは自分一人の力で生きていくわけではありませんが、様々な場面で、常に自分はどうか考え、どうか行動するのか判断に迫られます。そのときには、他人事ではなく自分事として、当事者と

しての意識がとても大切です。今日から始まる2学期は、最も長い学期ですが、その分、様々なことにじっくり向き合うことができると思います。皆さんが、勉強をはじめ係や委員会の仕事、部活動など、自らの意思・判断によって、自ら責任をもって行動すること、つまり「主体性」をもって取り組むことを期待しています。

結びになりますが、一人一人が心と体の健康にも留意しながら、今、できること、やるべきことに一生懸命取り組んで、大きく成長することを願っています。また、10月には合唱コンクールもあります。各クラスで練習に励むことで、集団の質を今以上に向上させてほしいと考えています。がんばってください。2学期が1学期以上のものになることを期待して、始業式の式辞といたします。

令和8年9月1日

観音寺市立観音寺中学校長 三好健浩